

中国におけるポンカンの生産流通調査 —福建省および浙江省を中心として—

中央果実基金 海外果樹農業情報 No.101

中国は世界最大のカンキツ生産国として、中でも、ポンカンの生産量は約670万トン(2007年)と多く、輸出向けの生産も重視されています。日本に対してはすでに輸入解禁要請が出ているところであり、品質、生産、流通、輸出状況などに関して現地の実態を把握することが必要となっております。中国のカンキツ産地は華南地域に集中しており、ポンカンの主要生産地も、福建省、浙江省、広東省、広西省など華南地域となっています。

こうしたことから、平成20年11月末～12月にかけて中国の代表的なポンカン産地である浙江省又は福建省(福建省では永春県等、浙江省では常山県等)を調査対象地として、ポンカンの生産、加工流通、輸出状況に関して調査を実施しました。

本稿は、その報告書の要約です。

1 はじめに

中国における2007年のポンカン生産をみると栽培面積が42万 ha、生産量が666万トン(非公式)で、全カンキツ生産量の約三分の一を占める。代表的なポンカン産地は華南地域に集中しており、福建省、浙江省および湖南省で栽培面積、生産量ともに多く、2007年の栽培面積と生産量はそれぞれ約10万 haと150万トン、約6.7万 haと150万トンおよび約10万 haと120万トンである。次いで、

広東省、湖北省の順である(図)。これらのポンカン産地では、伝統的な小規模請負耕作生産が主体であるが、近年は農地を集約した大規模な経営も発展している。ポンカンの販売も国内向け生食消費が主体であるが、近年は華僑による東南アジアへの輸出やロシアなどへの輸出も増加している。さらに、国内供給のだぶつきによる価格低迷により、ジュース、缶詰などをはじめとした加工も多くなり、有限公司による加工工場も増加している。

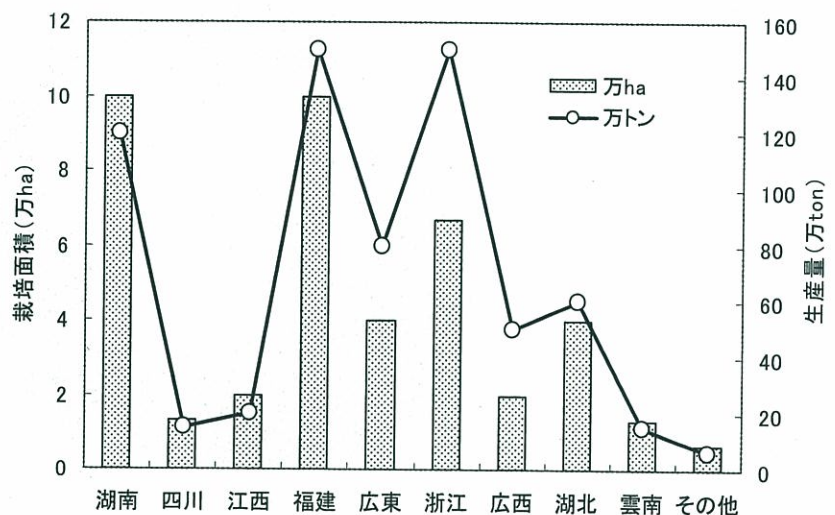


図 中国における省別のポンカン生産 (2007)

2 ポンカンの一般的特性と栽培適地

(1) ポンカンの一般的特性

ポンカンは中国原産の寛皮性カンキツで、芦柑、有柑、碰桶柑、蜜桶柑、蜂穴橘、潮州蜜橘、梅柑、白橘、勁版橘など多くの異名を

持っており、前述の通り、福建省、広東省、広西省、浙江省、湖南省、湖北省、四川省、貴州省および雲南省などでの栽培面積が多い。

ポンカンの樹体についてみると、樹勢が強く、樹冠は大きい。幼木の樹姿は直立性であるが、成木では開張性を示すようになる。果実は楕円あるいは高楕円形である。果実重は110～150g、果皮は橙黄色で、光沢があり、むきやすい。果皮の表面には小さい油胞が無数に存在し、凸凹が多い。一般的に、じょうのうは大きく、長腎形で、一果中に9～12個ある。果肉はやわらかく、果汁が多く、果肉率は68～70%、可溶性固形物含量は11～15%、糖含量は9～11 g/100ml、酸含量は0.3～0.8 g/100ml、種子は10～20個、品質は良好で貯蔵性も高い。

(2) 適応性および栽培適地

年平均気温が16℃以上、1月の平均気温が5℃以上で最低極温は-5℃以上の地域が栽培適地である。中国では、南亜熱帯気候である華南地域で栽培されるポンカンの品質が良好であり、山地や水田での栽培も多い。

(3) 主な成長時期

開花期は北より南の地域で早い。例えば、三峡ダム地域でのポンカンの発芽期は3月上旬、開花盛期は4月中・下旬、春梢伸長期は3月上旬～4月下旬である。第一次生理落果期は4月下旬～5月上・中旬、第二次生理落果期は5月下旬～6月下旬で、果実の成熟期は11月上旬～12月下旬である。夏梢伸長期は6月下旬～8月上旬、秋梢伸長期は8月中旬～9月下旬である。

(4) 栽培上の留意点

ポンカンは着花・結実性は良好であるが、隔年結果防止のため、施肥や水管理が重要であり、表年には、果実品質向上を図るために

摘果が必要である。

3 ポンカンの品種系統とその特性

中国におけるポンカンの種類は大別して硬芦と有芦の2つの系統に分けられる。

硬芦系統は、果皮が比較的厚く、硬いため、「硬芦」と呼ばれるようになった。また、果実の果梗部に6～8本の浅い放射状の溝紋を持つために「八卦芦柑」という異名も持っている。樹勢は強く、直立性を示し、樹冠は柱形で、主幹は比較的凸凹で「稜」がある。枝は比較的細く、葉身は楕円形である。果実はやや大きく、楕円形～やや腰高の楕円形である。果梗部はやや窪んでおり、間に6～8本の放射状の溝紋がある。果頂部はやや大きく、時には小さな臍（へそ）を持つ場合もある。果実重は120～160g、果皮色は橙黄色であり、皮はむきやすく、じょうのう数は平均9～12個であり、腎形である。種子は5～10粒、可溶性固形物含量は12～15%、糖含量は11～13 g/100ml、酸含量は0.5～1.0 g/100ml、ビタミンC含量は16～30mg/100mlである。果肉はやわらかく、果汁が多く、糖酸のバランスがとれ、風味が良好で、品質は良い。熟期は11月～12月頃である。

有芦系統は、樹体が比較的大きく、樹冠は長円形で枝は密生し、葉身は薄いが大きく、楕円形あるいは卵円形をしている。果梗は短く、果実は楕円形で放射状の溝紋は無い。果皮色は橙紅色で、果皮は薄く、裂果しやすい。果実重は90～100g、種子は10個以上、可溶性固形物含量は10～12%、糖含量は8～9.5 g/100ml、酸含量は0.6～1.1 g/100mlで、ビタミンC含量は30mg/100ml前後である。果汁は多く、比較的甘く、品質は中の上であり、熟期は12月である。硬芦系統に比べ有芦系統は果実品質と貯蔵性に劣るために栽培面積は減少している。

永春県を中心とした福建省のポンカンの

99%以上は硬芦系統である。一方、浙江省の衢州市では軟枝平蒂、硬枝高身、硬枝大果および軟枝高蒂という4系統の硬芦系統のポンカンが栽培されており、そのうち、硬枝高身系統は果皮の色が橙紅色で、果皮が厚く、果肉はやわらかく、風味が良好で、品質が良好

である。その他、広東省では平蒂硬枝、高蒂軟枝および早生芦柑という3系統がある。平蒂硬枝系統は抗性が強く、生産性が高く、貯蔵性が良い。高蒂軟枝系統では品質が良いが、貯蔵性が不良である。早生芦柑系統は貯蔵性が悪い。

